

令和5年度

徳島市城西中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 教育DXを取り入れた教育活動の推進
- 基礎・基本の定着を図るわかりやすい授業の実践
- 主体的・対話的で深い学びを目指した授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
森根英津子	校長 田村浩康 教頭 栗原ひとみ 教頭 佐藤一郎 教務主任 石井寧 進学主任 豊田勝 1年主任 山田茂美 2年主任 小西智美 3年主任 森根英津子 関係者 オオヤマ駿 山口稔裕 高尾裕介

校長

田村 浩康

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

相互の授業参観や教職員の情報共有、研修の活用など、教育活動の様々な機会を捉え、取組状況の把握に努める。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭での自主学習を行うことで、知識・技能を習得しようと努力する生徒が多い。 ●自分にとって習得が難しい知識・技能についての認識が不十分のため、定着が進まない生徒が多い。	・毎日の家庭学習に取り組む時間の設定や、自主学習の内容の工夫を行うことができる。 ・授業の準備を整え、課題の達成や宿題の提出等ができる。 ・解答の確認をする際には正確に行い、見直しをする習慣が身についている。	・目標・授業の流れ・振り返りを明確にする。 ・教材の工夫やMetaMoJiClassroomやミライシード等を活用し、個別最適化された「わかる授業」の実践に努める。 ・反復学習を徹底し、基礎・基本の定着を図る。 ・タブレットの持ち帰りによる家庭学習の充実を図る。 ・丁寧な解答確認を促すとともに、見直しの習慣化に努める。	・タブレットを活用した授業実践について学校全体で共有し、活用できるようにする。 ・「わかる授業」の工夫と反復学習や見直しの充実を進める。	・タブレット活用についての研修(講師を招いての研修及び教員間の授業研修等)の充実を図り授業実践に生かすとともに、「わかる授業」につながる取組を行うことができた。 ・反復学習や見直しへの声かけや方法の提示に努めた。	各教科において、教材開発・教材研究の検討、改善を図るよう努める。また、タブレットの活用場面を増やすとともに、効果的な活用方法を工夫し、子どもたちの知識や技能の向上が図れるよう努める。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○複雑な思考を必要とする課題についての理解を深め、順序立ててわかりやすく自分の言葉で説明することができる生徒も多い。 ●自分の考えや意見を書く、話す等の表現活動に苦手意識をもつ生徒が多い。また、相手の話を聞き、理解する力に課題がある生徒も多い。	・自分の考えや意見をまとめる力、自分の言葉を文章に表現する力、相手にわかるように伝える力を身につけている。 ・相手の話にしっかりと耳を傾けようとする姿勢や要約する力が身についている。	・学習形態や学習方法を工夫し、話し・聴く・書く等の言語活動の充実を図る。 ・ICTやホワイトボード等を活用し、意見を共有したり、出し合ったり、まとめたりする活動を行う。 ・自分の言葉で書く力やまとめる力をつけるために、ノートやワークシート、タブレットの有効的な活用を工夫する。	・複数人での学習活動の前に、一人一人思考する場面を設定する。 ・タブレットを使用した実践について教員間で共有し、積極的な活用を図る。	・学習形態や学習方法を工夫し、話し合い活動など言語活動の充実を図ることができた。書く力やまとめる力、自分の気持ちを表現する力をつけることにつながった。 ・タブレットを活用した効果的な実践に多く取り組むことができた。	各教科において、言語活動や表現活動の場面の設定を工夫し、自分の気持ちや考え方が表現できる力を育てる。その際、タブレットの活用効果にも注目し、学校全体で実践ができるように努める。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業で与えられた課題等に対して、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●自ら疑問や課題を見つけて自発的に取り組む生徒が少ない点が課題である。 ●自分の学習状況を把握できておらず、知識・技能の習得や思考力を育てるための手立て、方法を見つけていない生徒が多い。	・毎日の家庭学習の時間設定を行い、学習習慣を身につけている。 ・授業において、粘り強く課題に取り組もうとする基本的な学習習慣を確立し、主体的に授業に参加できる姿勢が身についている。 ・自分の学習状況を把握し、課題意識を持って学習を進めることができる。	・1時間の授業の目標や学習の流れ、学習の振り返りを提示し伝える。 ・生徒が意欲的に学習に取り組めるような教材や進め方を工夫し、積極的に参加できる雰囲気作り努める。 ・家庭との連携をとりながら、家庭学習の重要性についての理解と協力を図り、学習習慣の定着に努める。 ・家庭でのタブレットの使い方について、家庭との連携を図る。	・生徒の興味・関心に沿った教材の研究・工夫に努める。 ・生徒のつまずきに対して細やかな個別指導を行ったり、振り返りの充実が図れるよう改善に努める。	・各教科において、生徒が興味関心をもつことができるような教材や授業の流れを工夫したが、意欲的に参加できない生徒が見られた。 ・丁寧な振り返りや個別指導においては不十分な点が見られた。 ・自主学習ノートやテストの見直し等、家庭学習の充実をめざした実践を行うことができた。	子ども自身が自分で振り返りができような授業の流れの工夫に努める。また、その振り返りが家庭学習にも効果的につながるような実践を全体で工夫し取り組む。子どもたちが自分の学習状況を把握し、課題意識を持って学習を進めることができるよう支援の工夫を行う。

令和5年度 学力向上ロードマップ

